

第2回武蔵野市図書館運営委員会選書部会の記録

日 時 平成19年2月26日 午後6時30分
場 所 中央図書館 4階会議室
出席委員 毛利和弘委員 黒子恒夫委員 木下章子委員 鈴木喜和子委員
日高正登委員 川西西部図書館長 一ノ関中央図書館サービス担当係長
事務局出席職員 河中館長 村田吉祥寺図書館長 山中管理係長
春日中央図書館図書担当係長 前田主事 鹿島主事 船崎専門委員

議題及び内容

主な協議内容

(1) 議題

武蔵野市立図書館の選書について

- ・武蔵野市立図書館資料収集方針について
- ・障害者サービスについて

その他

なお、主な意見等は以下のとおり。

- ・所蔵していない資料のリクエストについては、利用者の方で遠慮しすぎる傾向がある。もっと図書館から利用者とのコミュニケーションをとるべきではないか。
- ・大手取次からは中小出版社の発行する資料は購入できない。特に郷土資料についてはそれが多。また非売品の資料も相当の数に上る。姉妹友好都市のものなど、全てチェックできているのか。
(事務局より)武蔵野市で刊行するものは全て図書館に寄贈するように各課に依頼してあるが、それ以外のものについては現状では完全なチェックはできていない。
- ・市民が自費出版で出した本を市民文庫に寄贈してもらうように、広報してはどうか。出版した図書を全て国立国会図書館へ寄贈するというルールが徹底していない現状では、地域の図書館がその本の唯一の所蔵館ということになることも多い。市民の文化活動のバックアップにもつながるのではないか。
- ・市内の著名な文化人については、是非とも市民文庫への寄贈をお願いしたいが、日頃から講演会を依頼するなど、良好な関係を築いておかねばならない。その土地に住む人物も郷土資料のひとつであるという視点から、蔵書を充実させる必要がある。
- ・外国語の選書の基準がまだ定められていない。今期の選書部会でぜひ定めることとしたい。
- ・来館する外国人はみな多少の日本語が話せるということだが、それは図書館側で、外国語で対応する態勢が整っていないため、結果として、日本語を話せる人しか来ないという面もある。留学生なども、図書館で何か疑問が解決したといった経験をしていると、それ以後大きな信頼を寄せてくれる。今以上に対応を充実させたいところだ。
- ・小中学校の調べ学習への協力などは現在でも行われているが、まだ学校側に十分に認識されていない部分がある。より一層連携を強化して、早めに情報を提供してもらえるようにしなければならない。
- ・障害者サービスに関しては次回の検討事項とする。

次回 平成19年5月28日(月)午後6時30分から